

令和5年度 県立筑波高等学校自己評価表

目指す学校像	「地域に支えられ、地域を支える高校生の育成」を目指し、地方創生に貢献できる人財を輩出する学校	【実践目標】 正しい判断 自主的行動	【育てたい資質能力】人間力 ① 他者とかかわり、協働する力 ② 自他を尊重し、思いやる心 ③ 粘り強くやり遂げる力
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
【成果】 ○ 学習指導 ・ 「主体的・対話的で深い学び」への工夫や筑波サポートタイム、一般常識ドリルの取組により、学習意欲の向上と基礎学力の定着が見られた。 ○ 生徒指導 ・ マナー指導に力を入れた結果、服装や授業態度が向上した。 ・ 校内研修で情報交換等を行った結果、個に応じた対応ができた。 ○ 進路指導 ・ 特進クラスの生徒を中心に、進学意欲が高まり、自己の進路実現に必要な情報を積極的に入手する生徒が増えている。 ・ 進路ガイダンスを充実させることにより、主体的に進路選択する資質・能力の向上を図ることができた。 ○ その他 ・ 学校行事が復活したことで、学校やクラスへの帰属意識を高めることができた。特に百人一首大会など本校の伝統行事については、その意義を共有することができた。 ・ 「つくばね学」を通して、地域や近隣の中学校と連携を深めることができた。 【課題】 ○ 学習指導 ・ 生徒の学習意欲を喚起するためには、教員の授業力をより一層向上させることが不可欠であり、校内研修を充実させる必要がある。	I 基礎学力の確実な定着と進路指導の充実	① 学校設定教科としての筑波サポートタイム（TST）やティーム・ティーチング、少人数授業の積極的な実施により、基礎学力の定着と学習意欲の向上を図る。 ② 進路指導において、動機付けや意識の高揚を図る工夫に努めることで、生徒の進路実現に結び付ける。 ③ 自己の適性理解に向けた進路講演会の開催、「進路の手引き」や関係教材等を活用したLHRを計画的に実施し、進路意識の高揚を図る。	B
	II 生徒指導の充実	① 生徒や保護者に学校の指導方針を伝え、学校と家庭が協力して、基本的生活習慣の確立に努める。 ② 「マナーカード」及び「Shihou カード」を効果的に活用し、生徒の自己管理能力や自己肯定感を高める。 ③ いじめの未然防止、早期発見に努め、組織として迅速に対応する。 ④ 教職員自らが人権意識を身に付け、生徒理解に努め、生徒指導のスキルアップを図る。 ⑤ 特別支援教育に関する理解を深めたり、カウンセリング的な相談スキルを高めたりすることで、生徒の自立を支援する。 ⑥ 学校行事やボランティア等を通して責任感、自立心、忍耐力を養い、自主的に活動するリーダー的人材を育成し、学校の活性化を図る。	A
	III キャリア教育の充実	① 2年生におけるインターンシップ（希望制）や「つくばね学」の実施を基礎に、3年生では「つくばね学」の探究を深める。また、「キャリア・パスポート」の活用をすすめることにより、キャリア教育を一層推進する。 ② 先を見通した体系的な進路指導を行うとともに、保護者へ進路情報を積極的に提供し、進路実現に向けた取り組みへの理解と協力を得る。 ③ 各大学・短大の情報を整理・公開し、進学意識の向上を図る。また、デジタル求人票を活用することで、就職内定率100%を維持できるよう、就職指導を充実する。	B

別紙様式 2 (高)

○ 生徒指導 - 全教職員で共通理解を図り、頭髪服装指導を徹底する必要がある。 - 生徒が自らの長所に気づき、伸ばすための働きかけをすることにより、自己肯定感を味わえるよう努める。 ○ 進路指導 - 進路選択・決定能力の不足を補うために、教員や保護者がいかにサポートしていくか検討する。 - 上級学校への進学意識を高めるため、進学に関する情報を精選し、各学年に分かりやすく解説する機会を設ける。 ○ その他 - ボランティア活動への参加を推奨することにより、地域に貢献し、自主的活動ができる人材を育成する。		IV 地域や異校種との連携	① 地元の風土や自然及び地域の教育力を生かす「つくばね学」「つくばね学探究」をさらに充実させ、2年生及び3年生全員による地域や筑波学院大学と連携した体験的な学習活動を実施し、生徒の「人間力」の向上を目指す。 ② 地域の義務教育学校訪問や筑波大学と連携した百人一首大会等の伝統行事を行うことで、生徒に愛校心や郷土愛を醸成し、地域を担う人材の育成に努める。 ③ 中学校と緊密に情報交換を行うことにより、信頼関係を構築する。 ④ つくば市との連携を積極的に図り、地域に根ざした高校として地域に貢献する。	A		
		V 働き方改革の実現	① 各学年及び各部において、副主任が機能する組織づくりによって組織力を向上させ、働き方改革の実現を目指す。 ② 教育的効果を低減させることなく、会議、打ち合わせ等の業務の精選や実施方法の改善を図る。	B		
		VI 授業の改善	① 電子黒板等の積極的活用と、学び合いなどを通して生徒の理解力を高め、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。 ② 教員相互の授業参観や意見交換等を積極的に行い、個々の教員の授業力向上を図り、生徒の学習意欲を喚起する。 ③ 生徒の授業満足度 75%以上を目指す。	B		
三つの方針		具体的目標		評価	次年度（学期）への主な課題	
「育成を目指す資質・能力に関する方針」（グラデュエーション・ポリシー）		○ 人間力（①他者とかかわり、協働する力 ②自他を尊重し、思いやる心 ③粘り強くやり遂げる力）を培い、地方創生に貢献できる人財の育成		A	A	総合的な探究の時間を中核にした生徒の育成
教育課程の編成及び実施に関する方針」（カリキュラム・ポリシー）		○ 個に応じたきめ細かな学習指導を徹底するとともに大学等との連携を図るなど、生徒の学習への興味関心を引き出し、多様なニーズに対応したキャリア教育による進路希望実現		B		進路実現を図る多様なプログラムの開発実現
「入学者の受入れに関する方針」（アドミッション・ポリシー）		○ 学校や社会の規範を守って日常生活の中で実践し、学校生活に積極的に取り組む意欲のある生徒		A		学校説明会や広報活動の充実を図る。
評価項目	具体的目標	具体的方策		評価	次年度（学期）への主な課題	
教科指導	生徒の実態に応じた授業を展開するとともに、基礎学力の定着を図る。	主体的・対話的で深い学びの実現を目指すという視点から授業改善を行い、「筑波サポートタイム（TST）、少人数授業やTTの実施等によって、生徒の基礎学力の向上を図る。 I ①		A	A	ICTの活用を推進することで、主体的に考え解決する力の育成及び基礎学力のさらなる向上を図る。
		個々の教員の授業力の向上を図ることで、生徒の進学意欲を高める。 I ②		B		
		生徒にとって分かる授業を目指して、教材や授業展開を工夫に努める。 I ②③		A		
教科	国語	TTやICT機器を活用しながら、生徒の多様な状況に対応し、基礎となる学力を身に付けさせ、生徒たちの学習意欲を喚起する。 I ①		B		・ICTの活用頻度をさらに増やし、特に古典における生徒の学習意欲や興味関心を高める授業づくり
		高校生として必要な基礎的な漢字と言葉を繰り返し学習することにより、語彙力を豊かにさせ、基礎学力の定着を図る。 I ①		B		

別紙様式 2 (高)

教科	国語		教科内での話し合いや、研修などでの情報を共有することで、評価方法の見直しや教材の開発・工夫に努める。	I ②③		B	くりをする。 ・漢検3級以上の合格者を増やせるよう、漢字の学習頻度を増やし、基礎力の定着を図る。 ・3年間を通した継続的な小論文指導を行い、進学・就職を見据えた指導を行う。 ・生徒が主体的に活動できるような授業展開をする。
		進学を見据えた学力の向上を図る。	進学希望者に対しては、課外授業や個別指導を実施する。	I ②③	B		
		漢字検定の合格率の向上を目指す。	小テストや演習形式の問題を通して、全体で3級以上25人程度の合格を目指す。	I ②	B		
			日々の授業で漢字や語彙を重要視した指導を行い、検定合格に対する意識を高めさせ、自学自習の習慣を定着させる。	I ②	B		
		進路に応じた表現指導を強化する。	授業で作文や小論文指導の機会を設け、実践的な文章力を身に付けるとともに、進路選択に役立つように、自己理解を深める契機とする。	I ②③	B		
			文章を通じた自己表現を通して、自己の考えや他者の意見を的確にまとめ伝える力を身に付ける。	I ②③	B		
	学校行事やICTの活用を通して、古典への興味・関心を高める。	ICT機器を活用して古資料に触れながら、古典の基礎的・基本的な知識を身に付けさせ、古典に親しむ態度を養う。	I ①②	B			
		百人一首大会を通して、和歌への興味・関心を高め、古典へ親しむ態度を養う。	I ①②	A			
	地理歴史	基礎学力の向上を図る。	歴史的用語・地理的用語の意味と正しい標記を理解させるために、繰り返し指導を行う。	VI③	A	B	・ICT機器を活用した授業の展開を推進し、利用頻度を増やす。 ・授業に言語活動を積極的に取り入れ、生徒の主体的な学びを促す。
		思考・判断・表現をさせるための授業改善を行う。	ICT機器を効果的に使用し、生徒の思考・判断・表現の一助とする。	VI①	B		
			グループ活動、学び合い、発表、探究等を取り入れた授業改善を行うことで、生徒の積極的な授業参加を促す。	VI③	B		
		地理的・歴史的事象に興味・関心をもたせる。	資料・映像等を効果的に使い、地理的・歴史的事象に対する興味・関心を喚起する。	VI③	A		
公民	基礎学力の定着を図る。	現代社会の用語を知り、意味を理解し、正しく標記できるようにする。	VI③	A	B	・ICT機器を活用した授業の展開を推進し、利用頻度を増やす。 ・授業に言語活動を積極的に取り入れ、生徒の主体的な学びを促す。	
	思考・判断・表現をさせるための授業改善を行う。	ICT機器を効果的に使用し、生徒の思考・判断・表現の一助とする。	VI①	B			
		グループ活動、学び合い、発表、探究等を取り入れた授業改善を行い、生徒の公共心を育む。	VI③	B			
	社会的事象に興味・関心をもたせる。	新聞やインターネットを利用し、現代社会の政治や経済に関心をもたせる指導を行い、主権者意識を高める。	VI③	A			
数学	履修内容及び基礎学力の確実な定着を図る。	TTを積極的に活用して、理解が進んでいる生徒に対する演習プリントの配付、理解に困難を示している生徒に対する個別指導の実施を着実にを行い、個に応じた学力の向上を図る。	I ①	A	A	・TTや補習を必要に応じて活用し、さらに個に応じた指導を十分に行う。 ・ICT機器の活用の授業を教科全体で検討し、実践する。	
		授業以外の支援を要する生徒に対して補習を実施し、履修内容の確実な定着を図る。	I ①	A			
		ワークの進捗を年5回以上のペースでこまめに確認し、授業内外で取り組みを促すことで、既習内容の復習を行う姿勢を育成する。	I ①	A			
		1学年における「TST（筑波サポートタイム）」で数名の教員により基礎的内容の細やかな指導を行い、基礎学力の確実な定着を図る。	I ①	A			

別紙様式 2 (高)

教科		個の進路希望に即した学習指導を実現する。	進学希望の生徒には課外授業や補習による受験対策を、就職希望の生徒には一般常識ドリルを活用した就職試験対策を実施することで、個の進路希望に即した学習指導を実現する。 I ②	A		
		授業の工夫改善を図る。	教科内で授業参観を各授業 1 回以上実施し、板書や発問、授業形式、I C T 機器の活用など指導法を検討することで、授業の工夫改善を図る。 I ③	B		
	理科	実験や観察の充実	年間 6 回以上の実験や観察授業を実施し、実験操作技術や探究的な思考力を育む。 I ①	B	B	・実験や観察の回数を維持する。 ・電子黒板やタブレット等の I C T 機器のさらなる活用方法を模索する。 ・単元末テストの結果を受け、個別指導を充実させ、知識の定着を図る。
		学習意欲の喚起と基礎学力の向上	生徒同士の対話的な学習を通して、自然事物に対する興味関心を高めるとともに、自然科学への学習意欲の向上をめざす。 I ①	B		
			I C T 機器の利用を通じて、分かる授業の展開に努めるとともに、授業の改善方法について教科内で意見交換を行う。 I ③	A		
		基礎学力の向上を図る。	単元末テストを実施し、生徒の理解度の把握に努めるとともに、その状況に応じた個別指導を行う。 I ②	B		
	保健体育	体力の向上及び規範意識の向上	運動の合理的・計画的な実践を通して、各運動の楽しさや心地よさを味わいながら、体力や運動技能を向上させる。また、服装面の指導を通して規範意識や安全に関する知識を身に付ける。 I ①、II ③	A	B	・運動に対して苦手意識をもつ生徒が多いので、得意な運動を見つけて生涯スポーツに繋がるよう意欲を高めていく。 ・生徒が主体的に行動し、課題発見ができる授業の展開を考える。
		生涯にわたって運動に親しむ資質の向上	各種の運動を仲間と主体的に実践することで、自分の得意な運動種目を見つけるとともに、体育理論を通じて生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力の育成を図る。 I ①	B		
		生涯を通じて自らの健康を管理し、改善していく活力ある人材の育成	生活習慣や交通安全、社会生活と健康等について、知識の定着を図る。また、生涯を通じて自らの健康について考え、適切に管理し改善していく思考力や判断力を育成する。1 週間あたり 3 時間以上運動している人が 80% 以上になるようにする。 I ①	B		
	芸術	基礎的な知識の定着を図るとともに表現・鑑賞の能力を高める。	小テストや振り返りを問入れて、基礎力の定着を図る。 I ①	B	B	・題材の最初に小テストを行うことで基礎力の定着を図る。また、生徒の実力に見合った小テストを精選する。 ・生徒アンケートの「意欲的に取り組んだ」という回答数を増やす。授業での取り組んでいる様子との乖離をなくす。
			生徒の芸術的能力を見極め、個々に応じた指導をする。 I ①	A		
			教員の芸術的資質を高めるために自己研鑽に努める。 I ①	B		
		生涯にわたり芸術を愛好する心情を養う。	芸術に対する興味・関心を高め、よさや美しさを味わいながら主体的に活動する態度の育成に努める。 I ②	A		
			題材の最後に生徒アンケートを行い、「意欲的に取り組んでいる」生徒の割合を 70% 以上にする。I ②	B		
	英語	基礎学力の定着と学習意欲の喚起	単元ごとに小テストを行い、生徒の理解力を高めることに努める。 I ①	A	A	・基礎的、基本的な内容の徹底を目指し、演習を通して、中学校段階の内容の確実な定着を図る。
			生徒の理解力に応じた個別の指導を実施する。 I ①	B		
			生徒の進捗状況に応じて、放課後の補習等を実施する。 I ②	B		

別紙様式 2 (高)

教			長期休暇中の課題を出し、家庭学習の定着につなげる。	I ①	A	・生徒の主体性を引き出す授業内容、展開を研究し、実用英語など、資格取得にも役立つ授業研究を行う。 ・英語に対して苦手意識をもつ生徒も、意欲的に授業に取り組めるような授業改善を図る。 ・主体的、対話的で深い学びの視点からの授業改善を図るとともに、4技能のバランスが取れた育成を目指す。
		検定に合格できる力を養う。	個別で進路に応じた対策を実施し、基礎学力の定着を図る。	I ③	A	
			英検の演習問題や単語テストを実施し、英検3級に合格できる実力を養う。	I ②	A	
		個の実態に即した授業展開と教材研究に努める。	個のニーズに即した教材作成を実施する。	I ①	B	
			検定の取得や研修会への参加を通し、自己研鑽に努める。	I ②	A	
			A L Tと協力し、対話的な学習意欲の向上に努める。	I ②	A	
		授業の改善に向けた教科内の協議を重ねる。	英語4技能をバランスよく育成し、多角的な評価に努める。	I ②	A	
			生徒自身が英語に触れる機会を増やし、より良い授業を行うために教科内で話し合いをもつ。	I ②	B	
	家庭	基礎的・基本的な知識の定着を図る。	生徒が興味関心をもち、主体的に学びを深められるよう、I C T機器やタブレットを効果的に活用する。	I ①	B	B ・I C T機器を効果的に活用し、実験・実習の充実を図る。 ・生活の充実向上に向けた授業展開を工夫する。
			プリントチェックや小テストを行い、基礎的な知識を定着させる。	I ①	A	
実験・実習を充実させ、生活の充実向上を図る能力と態度を育てる。		家庭生活を向上させるための技術や、社会に貢献できる技術を身に付けさせるため、I C T機器の活用や個別指導を個の能力や作業進度に応じて行う。	I ②	B		
科	情報	情報の表現を工夫する。	信憑性と真実性を確認した上で、適切な情報を収集する。	I ③	A	B I Tを活用する機会を増やし、情報の信憑性と有用性について、理解を深める授業を行う。
		情報の有用性を理解させる。	情報の収集方法を理解させ、情報の種類と情報の有用性についての判断力を身に付けさせるようにするとともに、I Tの活用能力の向上を目指した授業を実施する。	I ②	B	
	商業	情報機器の基本操作の習熟に努める。	ハードウェアとソフトウェアの違いを理解させ、コンピュータの5大機能における役割について学習を進める。	I ①	B	B ・情報モラルと情報セキュリティについての理解を高める。 ・資格取得について指導を徹底し、合格率を高める。
		情報処理能力を高める。	入手した情報を適切に処理する力を身に付けさせるとともに、著作権、情報モラル及び情報セキュリティについての理解度を高めさせる指導を行う。	I ①	A	
		資格取得の奨励に努める。	卒業後の進路を考慮し、上級資格の合格を目指して指導の工夫を行う。	I ③	B	
		生徒の実態を踏まえた教育課程を編成し、基礎学力の確実な定着を図るとともに、個に応じた発展的な学習を展開する。	生徒の正確な実態把握に努め、教員が指導の工夫・充実を図れるような取り組みをする。	VI①②	B	A ・学習指導に関する研修会や情報交換の時間を設け、さらなる授業改善と教科横断的取り組みを行う。
筑波サポートタイム（T S T）の実施方法を改善し、学習習慣の確立と基礎学力の定着を図る。			I ①	A		
少人数授業等を実施するにあたり、教員・教室の確保や円滑な授業の実施に努める。			I ①	A		

別紙様式 2 (高)

教		指導と評価の一体化に努め、多様な観点からの学習評価ができるようにする。	I ①	B	・観点別評価に関して、評価の時期や評価方法についてさらに研究を重ねる。	
		校内における授業研究や対外的な授業公開を行い、主体的・対話的で深い学びの実現を図るため、指導方法の工夫と改善を通して、相互に授業力を高め合う環境を整える。	I ②	B		
		生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、進路希望に応じた支援体制を構築する。	I ②	B		
	校内研修の充実を図る。	各種研修会等で得た情報の共有化を図るために、校内研修会を実施する。	I ②	B		
		教材の共有化・効果的な副教材の選択など、教科内での話し合いを推進する。	V ②	A		
	生徒の学習意欲の喚起に努める。	生徒の能力に応じて、習熟度別や少人数、ティーム・ティーチングの授業を行ったり、I C Tを活用した授業を行ったりするなど、指導法や教材の工夫をする。	I ①、VI ①	A		
	成績不振者に対する指導を手厚く行う。	生徒の実態を把握するため、学年会や教科会等、情報交換の場を適切に設ける。	V ①②	A		
		学年や教科等と連携をとり、成績不振者を減らすため、定期的に補習授業を実施する。	I ①	A		
	成績処理や事務処理の効率化を図る。	I C T機器を効果的に活用し、成績処理や事務処理等の効率化を図る。	I ②	A		
	務	図書館利用の活発化を図る。	図書館の役割・意義を再認識した上で、書籍の貸出しや読書をする場所のみににとどまらず、各種イベントを開催する場及び生徒がコミュニケーションを取る憩いの場として、校内で一番行きたい場所となるように努める。	I ③		B
読みたい書籍について誰もが気軽にリクエストできる環境づくりに努める。			I ③	A		
P T A活動の活性化を図る。		P T A役員と学校との連携を密にする。	Ⅱ ①、Ⅳ ④	A	B	P T A総会の出席者を増やす工夫をする。さらに役員や保護者との連携を、密にした活動を行う。
		P T A総会および支部総会等、P T A関連行事の活性化を図る（P T A総会出欠通知の回収率 80%を目指す）とともに、保護者に対して学校の教育活動について理解を求める。	Ⅲ ③	B		
進 路 指 導	進路実現のためのキャリア教育を円滑に行う。	キャリア教育を踏まえたうえで、各学年ごとの目標に応じた行事をスムーズに実施するためのサポートを行う。	Ⅲ ①	B	・自己管理能力や学習への習慣づくりを意識づけるために手帳を活用する。 ・授業の保管、基礎学力向上のために、放課後課外や土曜講座等を実施する。 ・放課後課外「未来タイム」では、I C Tを積極	
		進路ガイダンスやバス見学会等の実施により、自分の進路を意識付けできる機会を増やす。	Ⅲ ①	A		
	進路意識を高め、進路実現に必要な自己力を身につけさせる。	「進路の手引き」を発行し、生徒を対象に使い方を説明し、キャリア教育の充実をはかる。	Ⅲ ③	B		
		外部講師の講話や大学からの出前授業、先輩の話を聞く会及び「進路指導の手引き」の活用等を通じて、自分の進路を考え、進路意識を高める方策を考える。	Ⅲ ①④	B		
		特別な支援を必要とする生徒に関する情報を、特別支援コーディネーター及び外部機関と綿密に連携し、進路実現のための準備を早期から実施する。	Ⅲ ②	B		

別紙様式 2 (高)

		教員による企業訪問やインターンシップ、さらには企業や上級学校からの来校者との情報交換を密にすることで、受け入れ先の開拓や本校への理解が深まるように説明し、企業が求める人材となるよう、進路学習の指導方法を考える。 Ⅲ②	B		的に活用する。また、大学から講師を招聘し、生成A Iを活用した教科横断的な授業を行う。 ・デジタル求人システムを2年生から導入し、早期から使用方法を指導することによって、就職活動への意識を高める。
	進路実現のために、それぞれの進路に応じた工夫や指導を行う。	安定した求人確保のために、定期的なハローワーク訪問と連携をとり、また企業の新規開拓や定期的な訪問を行い、本校の取り組みの一層の理解を図る。 Ⅲ③	A		
		「未来タイム」、学習セミナーの充実をはかり、また教員研修会等の実施で効果的な指導方法の研究に努める。 Ⅲ③	B		
		本校生徒の実情に見合った情報収集に努め、発信をする。進路決定率100%を目指し、大学・短大進学者10名以上を目標とする。就職希望者に対しては求人票デジタルシステムを導入し、学校以外で情報を閲覧できるよう使用方法を指導する。 Ⅲ③	B		
生徒指導	学校行事や委員会活動を通して、帰属意識、協調性、責任感を養う。	学校行事を通して学校への期待感を高め、愛校心を育み、学校への帰属意識の高揚へとつなげる。Ⅱ⑥	A	A	・各委員会の活動とも関連させながら、学校行事の活性化を図る。 ・部活動の精選を進めながら、部活動の在り方についてさらに見直しをする。
		各種委員会を精選することで、存置した委員会の活動をさらに充実させ、委員会活動を通して、責任感・達成感・自己有用感を感じられるようにする。 Ⅱ⑥	A		
	部活動への積極的な参加とその継続を図る。	部活動の地域移行について、校内会議、アンケート、研修、外部団体との意見交換を行う。 Ⅴ②	B		
	基本的な生活習慣の確立とマナーやモラルの向上を図る。	登校指導や下校指導、昼休みの巡回指導等を計画的に行い、遅刻を減らし、服装や生活面の改善を図る。 Ⅱ①	A	A	・校内研修を充実させることで生徒指導スキルの向上を図り、マナーカードに頼らない指導を目指す。 ・“いじめ”について職員間で共通理解をはかり、迅速な対応を徹底する。
		「マナーカード」指導について職員の共通理解と共通実践を図り、職員が一体となって行う生徒指導を推進する。 Ⅱ②	B		
	生徒対応・生徒の問題行動・いじめ事案に対する教員のスキルアップを図る。	校内研修等を行うことで、生徒対応や生徒の問題行動、あるいは電話対応についての教員個人のスキルアップを図ることで、組織全体の生徒指導スキルの向上を目指す。 Ⅱ⑤	A		
		いじめ事案の対応について職員間で共通理解を図ることで、いじめ事案に対し迅速に、組織的に対応できるようにし、いじめの防止に努める。 Ⅱ③	A		
保健厚生	学校安全に努める。	新型コロナウイルス感染症が第5類移行後も、基本的な感染症対策を継続し、マスクの着用など「個別判断」や「推奨する」など臨機応変に対応する。 Ⅱ①②	A	A	・生徒が安心して学校生活を送れるよう、校舎内の安全管理や、災害時のマニュアルについてを定期的に確認する。 ・生徒の心身の状況を把握し、必要に応じて、ス
		清掃用具の補充や清掃分担の工夫により、安全点検を兼ねての清掃活動を徹底し、学習環境の向上を目指す。 Ⅱ①②	B		
		防災計画を見直し、訓練を通して防災意識の高揚を図るとともに、災害時に適切な行動を選択できる能力を育成する。 Ⅱ②	A		

別紙様式 2 (高)

一 学 年	教育相談の充実を図る。	教育活動の中から些細な生徒の変化や、支援を要する生徒の把握に努め、スクールカウンセラーに繋げる。 Ⅱ③④	A	クールカウンセラーや外部機関との連携を図る。 ・健康診断の結果を速やかに通知し、一人一人の健康課題と向き合えるよう、保健だよりを用いて指導を行う。
		教育相談に関する研修会を実施する。 Ⅱ④	A	
	健康課題の解決に努める。	定期健康診断後は速やかに結果を全員に通知し、自己の健康課題への取り組みをサポートする。また精密検査が必要な生徒が早期に受診・治療に結びつけるよう、定期的に面談の機会を設け、家庭との連携を強化する。 Ⅱ①②	A	
		保健だよりを用いて健康教育の推進と、健康課題への気づき・解決への意識を培う。 Ⅱ④	A	
	基本的な生活習慣の確立に図り、地域とのつながりを意識した学校生活を送ることができるようにする。	家庭との連絡を密にして協力しながら、欠席・遅刻・早退を減らし基本的な生活習慣の確立を図る。 Ⅳ①②	B	- 一部生徒の遅刻及びマナーカード取得が常習化している。基本的な生活習慣の確立を図り、卒業後の進路を見据えて指導する。 - 挨拶などしっかりできる生徒が多い反面、校外ボランティアへの参加率が非常に低い。総合的な探究の時間もからめてボランティア参加率を上昇させる。 - TSTでの振り返り学習に効果的であったことから、地道に学びを進めて、さらなる生徒の成長を促す。 「つくばね学探究」で、地域に関心をもつ生徒増を図り、地域をさらに広げていく。 - 具体的な進路について考える機会を設け、校内での調べ学習などだけではなく、実際にその場に行ったり体験したりすることで進路への意識向上を図る。
		校外内外での挨拶の励行、校外ボランティアへの参加などを通して、地域とのつながりを意識して学校生活を送れるようにする。 Ⅳ①②	B	
		服装・頭髪指導を通して、校則を遵守する大切さに気づき、「正しい判断」ができる生徒の育成を目指す。 Ⅲ①②	B	
		生徒との面談を適宜行ったり、保護者への連絡を密に行ったりすることで生徒理解に努めるとともに、教員間での情報を共有し、問題行動等を未然に防ぐ。 Ⅲ①②	A	
		服装・頭髪の意識改善を通して、身だしなみを正し、社会の常識を身に付けさせる。 Ⅲ①②	A	
		生徒の観察や面談等を通じて、生徒理解に努め、保護者との連絡を密にして、問題行動を事前に防ぐ。 Ⅲ①②	A	
二 学 年	個々に応じた学習指導を充実させ、基礎学力の向上を目指す。	「筑波サポートタイム (TST)」を活用し、基礎学力の定着を図る。 Ⅰ①	A	
		「つくばね学探究Ⅰ」やLHRでの活動を通じて、地域との共生を目指す Ⅰ①	A	
		授業担当者との情報共有を密に行い、生徒一人一人の状況を把握し、特に学習に困難がある生徒には家庭との連絡を密にして学習習慣の定着や基礎学力の向上を目指す。 Ⅰ①	A	
		成績不振の生徒には個別に対応し、家庭とも連携しながら苦手科目の克服を目指す。 Ⅰ①	B	
	進路について自分で考えるための素地を作る。	進路ガイダンスや体験学習などを実施し、進路実現に向けて個々の進路意識の育成を図る。 Ⅱ①②	A	
		未来タイムを実施して、進学意欲の高い生徒への様々な情報を提供し、進路についての意識づけをする。 Ⅱ②	B	

別紙様式 2 (高)

二 学 年	基本的な生活習慣を養い、落ち着いた学校生活を送らせる。	欠席・遅刻・早退の減少及び連絡の徹底を促す中で、家庭との連絡を密にし、協力しながら、規則正しい生活習慣が身に付くよう指導し、基本的な生活習慣の確立を図る。 Ⅱ①	A	A	・学習について、基礎基本が定着していない生徒も複数見られる。スモールステップを大切に、日頃の授業で細かい気配りをする。また、基礎学力向上のために授業への意欲が高まり、楽しくなるような工夫を実践していく。 ・「つくばね学」と進路指導との結び付きをより密にする。そのために、日頃の実習を十分に振り返らせ、職業選択の醸成につなげる。また、地域課題の発見や解決といった探究の視点をもって生徒が参加できるように意識づけをする。 ・就職試験を見据えて一般常識ドリルにしっかりと取り組むよう指導する。
		頭髪・服装の意識改善を通して、校則を遵守する態度を育成する。 Ⅱ①	A		
		マナーとモラルを尊重し、「正しい判断」及び「自主的行動」ができる生徒の育成を目指す。 Ⅱ②	A		
		生徒との面談を適宜実施し生徒理解に努め、生徒の豊かな心を育むとともに、いじめを始めとする問題行動を未然に防ぐ。 Ⅱ③	A		
	基礎学力の向上に努め、学習に取り組む環境づくりに努める。	学び直しの取り組みを継続し、基礎学力の定着を図るとともに、小テストや一般常識テストなどを活用し、就職試験や受験を見据えた基礎知識及び幅広い教養を身に付けさせる。 Ⅰ①	B		
		課題や提出物の指導を通して、授業に主体的に取り組む態度を育成する。 成績不振の生徒や、学習に困難を抱える生徒に対して、家庭との連携を密にしながら学習習慣の定着や、基礎学力の向上を目指す。 Ⅰ①、Ⅱ⑤	A		
		基礎学力の向上と、生徒一人一人の進路実現を目指した授業の工夫や改善などに努める。 Ⅰ②	B		
	「つくばね学」やキャリア・パスポートを有効に活用し、生徒の進路実現を目指した学力の養成に努めるとともに、キャリア教育の充実に努める。	第2・3学年で実施する「つくばね学」と、希望制によるインターシップを通して、生徒に将来の目標をもたせ、望ましい勤労観・職業観を育成し、進路意識の醸成を図る。 Ⅲ②	A		
		「つくばね学」を通じて職業観を身に付けさせるとともに、社会人として備えるべき資質・能力を育成し、自己実現や進路実現のための知識の育成を目指す。 Ⅲ①	A		
		歩く会や「つくばね学」を通して、地元の風土や自然を学び、地域の人とふれ合うことで、生徒のコミュニケーション能力の育成及び地域課題の発見や解決を目指す態度を育成する。 Ⅳ①	A		
		個別面談、進路ガイダンス、バス見学会等を実施し、学習意欲と進路意識を高める。 Ⅱ①③	A		
		アカデミックコースでは、平常課外・模擬試験・夏季セミナー等を活用しながら、進路希望に応じた学力の向上を図り、進路実現を目指す。 Ⅰ③	A		
		就職希望者には、個々の適性に応じた将来の目標をもてるよう個別に指導する。 Ⅲ④	B		
三 学 年	立派な社会の構成員となるよう基本的な生活習慣を養う。	欠席・遅刻・早退について対前年比5%減を目指し、生徒に規則正しい生活習慣が身に付くように適宜指導する。 Ⅱ①	B	A	・ICT利用のさらなる拡大を図る。 ・生活面での基礎基本が身に付かない生徒が少数いた。地道な生活指導をしていく。
		服装や頭髪指導を実施し、校則を遵守する態度を育成し、徹底に努める。 Ⅱ①	B		
		スクールカウンセリング等を活用し、家庭と連携を密にするなどして、問題行動の防止に努める。 Ⅱ⑤	A		
	学校行事や学習に積極的	小テストや常識テストなどを活用し、基礎学力のさらなる向上に努める。 Ⅰ②	A		

別紙様式 2 (高)

	に取り組む態度を育成する。	学校行事に積極的に参加させ、有意義な学校生活を送らせる。	Ⅱ⑦	A		・生徒に応じた進路決定を実現させるために、さらに段階的・継続的な指導を行う。 ・進路実現のための「つくばね学」の利用をさらに促進する。
		資格取得を奨励するとともに、主体的・対話的活動を通じて言語力を高める。	Ⅲ③	A		
		成績不振者に対しては、家庭との連絡を密にし、進路実現や卒業を目標に支援する。	Ⅲ③	A		
	生徒一人一人の進路希望実現に取り組む。	総合的な探究の時間やLHR、進路ガイダンスや面接指導など、生徒の実態や希望に応じた進路計画を立てる。	Ⅲ①	A		
		課外や適性検査などを実施し、必要に応じて生徒や保護者と面談をするなどして、一人一人に合った進路指導の充実を目指す。	Ⅲ③	A		
		進路意識を高め、生徒一人一人の進路希望が達成できるよう努め、進路先決定率 95%以上を目標とする。特に就職については、内定率 100%の継続を目指す。	Ⅲ④	B		
		進路ガイダンス、学校説明会やオープンキャンパス、職場見学などに積極的に参加させ、進路希望の実現を目指す。	Ⅲ④	A		
		つくばね学を継続・発展させた「つくばね学探究」を実施し、地域と連携した体験的な学習活動や一年間の実習の成果を発表する報告会を通じて、「人間力」を育成する。	Ⅲ②、Ⅳ①	A		

※評価基準 A：目標が十分に達成された（達成度 80%以上） B：ある程度成果が見られた（達成度 60%以上） C：取り組んだ（達成度 40%以上）
D：課題を残した（達成度 20%以上） E：取り組むことができなかった（達成度 20%未満）